

## 第2学年 道徳学習指導案

日 時 平成25年11月12日(月)5校時

学 級 住田町立有住中学校 2年A組

(男子4名 女子4名 計8名)

場 所 2年A組教室

授業者 教諭 野口 貴弘

1 主題名 より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ  
(学習指導要領 内容項目1-(2))

2 資料 『ぼくらの復興シンボル』(自作資料)

### 3 主題設定の理由

#### (1) 価値について

中学生の時期は、希望と勇気を持って生きる崇高な生き方にあこがれを持つ時である。しかし、困難や障害に直面すると簡単に挫折し物事をあきらめてしまうこともあり、理想どおりにいかない現実に悩み苦しむことがある。さらに現在は変化の激しい社会であることから、中学生にとっては目標を立てにくい状況にある。これから生徒が社会に出て、人間としてよりよく生きるには、目標や希望を持つことが大切である。目標には、大きいものから小さいものまであるが、小さな目標であってもそれが達成されたときには満足感を覚え、自信と勇気がわいてくるものである。このような達成感の積み重ねが自分の可能性を伸ばし、人生を切り開いていく原動力となり、さらに高い目標に向かって努力をする意欲に必ずつながると考える。また、将来生きていく上で、理想や目標を持つことが自分の生き方をよりよくするものであることに気付かせることも大切である。そのためには、目標を実現するための越えなければいけない壁があることに気づき、その壁から逃げるのではなく、自分の正しいと思う判断を根拠に行動していく強い意志と態度を育てていきたい。

#### (2) 生徒の実態

学校の特色でもあるが、全校トレーニングの後にフリースピーチという時間があり、人前で話す機会は日常的に設けられている。しかし、自分の思いをしっかりと伝え、話し合いができていないかといえば、疑問符である。具体的には、学級の中で力のある生徒の発言に左右され、自分の意見を思うように発言できない傾向が見られる。自分の意見や考えを持ちつつ、それを相手に伝えるとともに、相手の思いや考えを理解し、尊重することが大切である。自分と異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、より広がりを持たせたいと考える。生徒への意識(価値への)変容をとらえていきたい。

### 4 授業の構想について

本資料は自作による葛藤資料である。資料に基づき、主人公のおかれた状況を十分に理解させたい。主人公の考えや行動について生徒の感想の違いを明確にし、話し合いの方向性をはっきり決める。主人公の考えや行動に共感させ、問題点をはっきりさせながら主人公がなぜ変容したのかを考えさせ、価値にせまりたい。この一連の流れの中で「生徒と生徒の関わり合い」を大切に、生徒が友の考えを聞いて気付いた考えを述べたり、より深く豊かに自分を見つめたりすることができるように教師がコーディネートしていきたい。

最後に、授業で深まった自分の考えを文章で表現させる。ここで教師がねらった価値について触れながら自己評価がなされているか評価していきたい。

5 本時のねらい 自分の弱さや困難を克服し、最後までやり抜こうとする意志や態度を育てる。

6 本時の展開

	学習活動と主な発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 12分	<p>1 教師が資料を範読する。</p> <p>2 大まかなあらすじを確認する。</p> <p>3 初発の感想をプリントに書き、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主人公の気持ちを大切に文章を目で追う。</li> <li>主要場面を確認する。</li> <li>「大志が勇気を振り絞って、やり直しを言えたところが凄いなと思った。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章から、その様子が頭にイメージ化できるように読む。</li> <li>そのような行動ができたのはなぜか授業の課題につなげていく。</li> </ul>
展開 30分	<p>4 課題意識を高める。</p> <p>「もう一回、やり直し。」を言えない大志をどう思うか。</p> <p>5 変容契機をとらえる。</p> <p>「復興のシンボル」という言葉に自分が情けなくなったのはなぜか。</p> <p>6 価値にせまる。</p> <p>今まで言えなかった「もう一回、やり直し。」と言えたのはどんな気持ちからだろうか。</p> <p>7 価値の把握をする。</p> <p>もし、周りからうんざりした顔やため息があったら、「やり直し。」を言った自分を後悔したのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなからやる気のないため息が聞こえてくる中、リーダーだからといってやり直しをかけるには勇気が必要だ。みんなの雰囲気を壊すのも怖い。」</li> <li>「リーダーなのだから、みんなに気合いを入れて、先輩から引き継いだソーランを高めるべきだ。」</li> <li>父は、反対意見が出されたが、自分の意志をしっかりと貫くところが凄い。自分ができていることをしっかり考え、みんなに伝えている。自分にはできていない。</li> <li>大志がリーダーとして、地域のため、学校のために素晴らしいソーランにしたいという気持ちから。</li> <li>たとえ結果がどうあれ、自分の思いをしっかりとみんなに伝えたことで悔いはない。</li> <li>もう今までの自分と違い、自分のことだけでなく、リーダーとしての思いをやっと伝えることができたという気持ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの意見を発表させ、自分の立場を明確にし、主人公の気持ちに共感や批判する気持ちを持たせる。</li> <li>批判が出てこない場合、教師が「この人の立場は」と聞く。</li> <li>人にどう思われるかではなく、自分がどうしたいか考えることの大切さに気付かせる。(今までの大志と父を比較する。)</li> <li>リーダーとして、素晴らしいソーランにするには、いま自分の思いを伝えることの大切さに気付かせる。</li> <li>自分の弱さを克服し、希望と勇気を持ってやり抜く強い意志を持つことができたことに気付かせる。</li> </ul>
終末 8分	<p>8 本時に学んだことをプリントに記入し、発表する。</p> <p>9 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーとして自分の意志をしっかりと持って頑張りたい。</li> <li>〇〇さんの発言を聞いて、自分はこう思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互理解や自己理解に関わる記述をするように声がけをする。</li> </ul>



板書計画 タイトル「ぼくらの復興シンボル」

初発の感想

大志のやり直しを言えたところが、自分ではできないので凄いと思った。

「もう一回、やり直し。」を  
言えない大志を  
どう思いますか。



主人公  
・大志  
・執行部  
・ソーラン担当

- 先輩からのプレッシャーがづらいから。 ○リーダーなのに責任感がない。
- 周りもやる気がない。 ○自分が担当者なのに情けない。
- みんなの雰囲気壊したくない。

「復興のシンボル」という言葉に  
自分が情けなくなったのはなぜ  
ですか。

- 父は自分の意見をしっかり述べていて、凄い。
- 父は自分ができていないことができていて凄い。
- 今の自分じゃだめだと思った。 変わりたい。
- 自分の考えは間違えていない。

今まで言えなかった  
「もう一回、やり直し。」と  
言えたのはどんな気持ちか  
らだろうか。

- 自分たちだけでなく、地域の人たちを元気づけたいというもっと高い  
目標に近づきたいという気持ち。
- 今しかできない。 今伝えないと後悔する。 言いたいことがやっと言えた。

もし、周りから うんざりした顔や  
ため息があったら、「やり直し。」  
を言った自分を後悔したでしょう  
か。

- 結果はどれであれ、みんなに反対されてももう一つ上のレベルに進んだ。

まとめの感想

「自分の弱い心を克服し、自分の思いをみんなにしつかり伝えた」ところ  
を自分も見習っていききたい。

キーワード

- ・共感・迷い
- ・伝統・プレッシャー
- ・リーダー

- ・感動・本気
- ・熱い思い
- ・はずかしい

- ・高い目標
- ・決断力
- ・自分の弱さを克服

- ・やりきった充実感
- ・強い意志

## まはりの復興シンボル

本当は何度も「もう一回、やり直し。」と、大志は声に出したかった。あちらこちらから聞こえてくる、やる気のないため息に飲み込まれるように、思わず口をついて出てきた言葉は、

「あとは、一人ひとりが意識して踊ってください。これで練習を終わります。」

大志の学校では、毎年行われる運動会で、学校の新しい伝統として根付いたソーランを踊ることが恒例の行事になっている。ソーランは全校生徒の絆として、学校の志気を高めるために数年前から取り組んでいる。

三月十一日。津波で町は流された。自分たちの校舎はなくなった。学校がなくなるなんて誰も想像しなかった。自分たちの中学校生活はどうなるんだろう。大志は、目の前が真っ暗になった。生徒会執行部選ばれた大志は、生徒会活動をどう盛り上げたらいいかを考えていた矢先の出来事だった。

春に行われる運動会も、秋に延期せざるをえなくなった。こういうときだからこそ運動会で、地域の方々を元気づけるソーランにしたかった。

全校で昼休みのわずかな時間も使って練習をしていた。三年生の大志は、生徒会執行部であり、ソーランの担当者として全校を盛り上げることを目標にしていた。全校がひとつになった気持ちのこもったソーランで運動会を盛り上げたかった。特に、震災でつかれた地域の方々を元気にするため、迫力あるソーランを見せたかった。自ら生徒会役員選挙に立候補して選ばれたリーダーである以上、全体を引っ張っていかねければならないことは、十分にわかっているつもり。でも、「もう一回・・・」と言えば、きつとみんなはいやがるにきまつている。腰を深く落とした低い姿勢で踊るソーランは、すごい運動量だ。暑い中、何度も踊るのはきつすぎる。友だちだつてうんざりした顔になる。手を抜いて踊る友達がいると、やり直しを何度も繰り返しすしかなく、みんなの雰囲気ますます悪くなってくる。大志は、「こんな思いまでしてソーランをする意味があるのだろうか。」という思いが強くなっていった。

これの繰り返しの日。何度も「もう一回、やり直します。」と、言いたかったが、思わず口をついて出るのは、「これで練習を終わります。」ばかりだった。

七月、ある日の練習の帰り道、昨年卒業した先輩と出会った。

「どうだあ？ソーランの出来ばえは？あれ結構つらいんだよな。全体をまとめるのは、すごく大変だろう。本番、楽しみにしてるからな。」

大志は、先輩の言葉で、ますます気が重くなった。確かに、毎日練習を行っていても、全体がそろっているとは言えないし、気持ちがいもこもった踊りができているとはお世辞にも言いがたい。

夏休みの夜、父親の工場で働く同僚が数人、家に集まってきた。工場の再開についての話し合いである。大志は、お茶を居間に運ぶ手伝いをしながら大人たちの話を聞いていた。突然、いつもはおとなしい父が、

「町の中にあるがれきは、うちの工場で焼くことにするぞ。」

と今までに聞いたこともない口調で話した。そして続けざまに、

「焼いた灰を再利用してセメントの原料にしよう。人々を苦しませてきたがれきを、人々の役立つものに変えられるはずだ。被災した工場が、このセメントを使って被災地の道路や橋を作るんだ。町の復旧を助けるんだよ。」

海水につかったがれきを焼却すれば、焼却炉そのものが故障するという強い反対意見が出されたが、父はがんとして一步も引かなかった。

話し合いが終わってから、父に、

「がれきをうちの工場で焼くって、本気なの？」と聞くと、

「もちろん本気だ。がれきを焼くだけではないんだ。煙突にも明かりをつけるぞ。」

「煙突に明かりをつけるなんて、何の意味があるの？まわりからよく思われないうらう。」

「まわりのこととか、よく思われるかなんて問題ではないんだ。父さんは、この工場を町の復興のシンボルにしたいんだ。」

と熱く語った。大志は、「復興のシンボル」という言葉に心が震えた。ソーランの練習に何の意味があるのだろうかと考えた自分が情けなくなってきた。

九月上旬、延期された運動会は、別の小学校の校庭を借り、規模を縮小して行われることになった。リハーサルは本番前の日だけしかできない。最初で最後のリハーサル。みんなの動きは鈍く、ばらばらだった。まとめ役の大志は、気持ちがつきりしない。

リハーサルの終了時刻が近づいてくる。全体の仕上がり具合も、だいぶよくなったから「これぐらいで」という雰囲気になり始めた。

「もう一回、やり直し。」

今まで言えなかった言葉が、大志の口から出た。会場が静まり返る。自分の顔が真っ赤になっているのが分かる。

「これでいいのか。このレベルで、地域の方々を元気づけることができるのか。こんなときだからこそ、自分たちの学校を盛り上げようよ。そして、おれたちのソーランを復興のシンボルにするんだ。」

と叫んでいた。うんざりした顔は見られず、ため息も聞こえない。全体が、自然に踊りの隊形に散らばり始める。そして、ソーランの音楽が再び練習会場に流れた。

いよいよ本番。地域の方々も続々集まってきた。父も仕事の休みを利用して、自分たちの姿を見に来てくれた。

「復興ソーラン、行くぞ。かまえっ。」

と大志は号令をかけた。

運動会の帰り道、父の工場の煙突が見えたとき、おれたちのソーランを、学校の「復興シンボル」と大志は自分の心に強く誓った。

【ねらい】自分の弱さや困難を克服し、最後までやり抜こうとする意志や態度を育てる。

《主要場面》	《主人公の意識》	《学習者の意識》	《意識の焦点化》	《主な発問》
「どうだあ？ソーランの出来ばえは？という昨年卒業した先輩の言葉で、ますます気が重くなってくる。	先輩方や地域が楽しみにしているソーランの担当者としていいものにしたいが、「もう一回、やり直しと。」言えない自分がいる。	みんなからやる気のないため息が聞こえてくる中、リーダーだからといってやり直しをかけるのには勇気が必要だ。悩むのも分かる。みんなの雰囲気壊すのも怖い。	仲間の気持ちに共感し、先輩からのプレッシャーにも負け、リーダーとしての言動を取れない弱気な自分がある。(やり直しをかける方がいい。)	「もう一回、やり直し。」と言えない大志をどう思いますか。
父の「復興のシンボル」という言葉に心が震え、自分が情けなくなった。	父の自分はこうしたいという強い意志から、今までの自分は周りのことだけ気にしているという小さい自分に気がつく。自分ができることはないか考え	父は、反対意見を出されたが、自分の意志をしっかり貫くところが凄い。自分ができることをしっかり考え、みんなに伝えている。	人にどう思われるかではなく、自分がどうしたいか考えることの大切さに気付く。	「復興のシンボル」という言葉に自分が情けなくなったのはなぜですか。
「もう一回、やり直し。」今まで言えなかった言葉が、大志の口から出た。	地域・先輩・学校を盛り上げるためには、最後の最後までいいものを作ろうとする気持ちが重要だ。やりきりたい。	大志がリーダーとして、地域のため、学校のために素晴らしいソーランにしたいという思いがそうさせたのだと思う。自分の思いを伝えなかった。	リーダーとして、素晴らしいソーランにするには、いま自分の思いを伝えないといけないことに気付く。	今まで言えなかった「もう一回、やり直し。」と言えたのはどんな気持ちからだろうか。
もし、周りからうんざりした顔やため息があったら、大志の心はどんな気持ちになったのか揺さぶる。	たとえ結果がどうあれ、自分の思いをしっかりみんなに伝えたことで悔いはない。	もう今までの自分とは違い、自分のことだけではなく、リーダーとしての思いをやっと伝えることができたという気持ち。	自分の弱さを克服し、希望と勇気を持ってやり抜く強い意志を持つことができたことに気付かせる。	もし、周りからうんざりした顔やため息があったら、「やり直し。」を言った自分を後悔したでしょうか。